

教えて！紙のこと

今回は、和紙を専門に扱う山形屋紙店（東京都千代田区）へ。明治十三年の創業以来、和紙ひとすじのお店です。宮内庁御用達でもあり、歌会始のときに使う紙などを宮中に納めています。店主の田記有子さんにお話を伺いました。

書道半紙はもちろん、障子紙や便箋など、和紙って、身近な存在だね。



どんなお話が聞けるのか、楽しみだね。



イラスト：北村ケンジ

1 和紙の産地

いろいろな和紙が置いてありますね。うちの店では、書道半紙の他、奉書紙、千代紙、障子紙、手芸用和紙はもちろん、便箋やはがきなども扱っています。お店に置く和紙は、なるべく和紙職人の工房を訪れ、職人と話をしながら決めていきたいと思っています。やはり、実際に職人が和紙を漉いているところを見たり、その土地の自然に触れたりすると、和紙に対する愛着が全然違ってきますから、大変ですが、できるだけ工房へ出向くようにしています。



▲便箋やはがきなどが所狭しと並ぶ店内。

和紙はどのような場所で作られているんですか。

川の上流付近など、きれいな水のあるところですね。また、暑い場所は和紙作りに向きません。冷たくてきれいな水で和紙を漉くと、締まったよい紙になるんです。

和紙は、全国さまざまな場所で作られています（左図参照）。うちの店で取り扱っているものでは、福井県の越前和紙や、高知県の土佐和紙が多いですね。岐阜県の本美濃紙、埼玉県の高野紙、島根県の石州半紙は、昨年十一月にユネスコ無形文化遺産に登録されたので、ご存じの方も多いと思います。

2 和紙の原料

和紙の原料は何ですか。

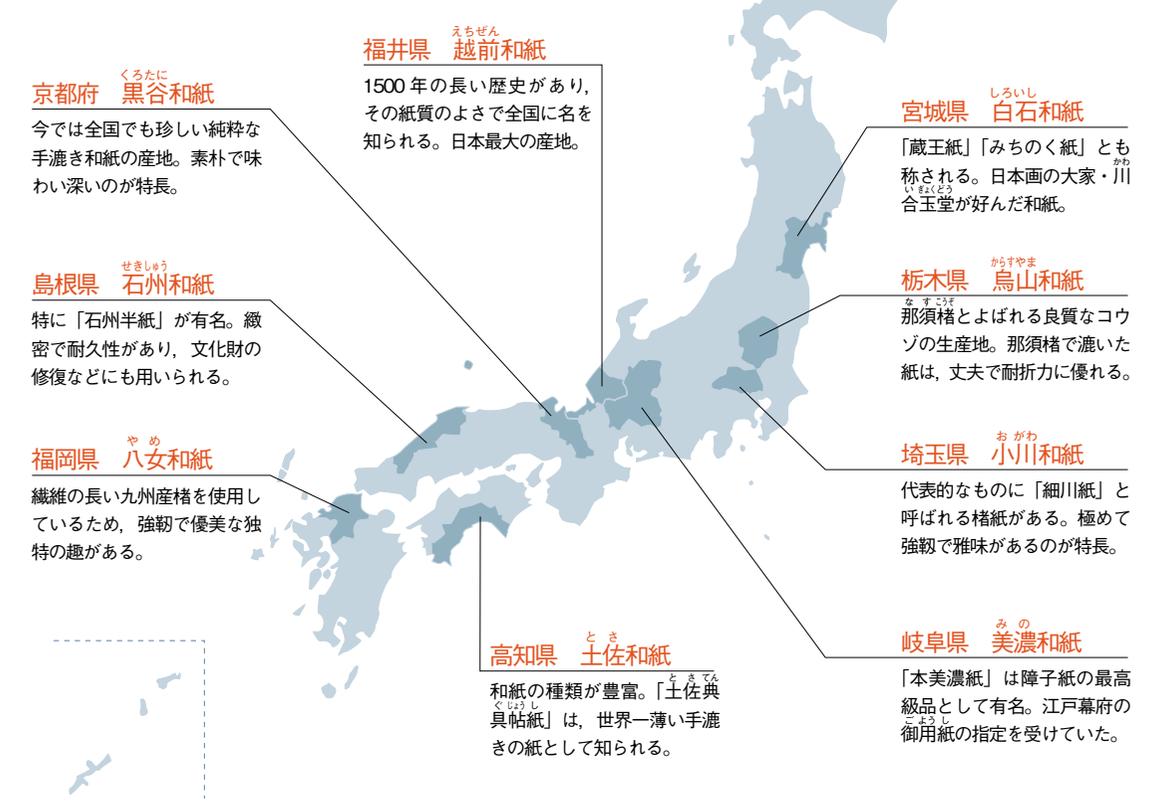
古くは麻なども使われていましたが、現在は、コウゾ（※1）、ミツマタ（※2）、ガンピ（※3）という三種類の木の皮の繊維が多く使われています。それから、トロロアオイ（※4）という植物の根に含まれる粘液を糊として使います。

コウゾは繊維が長く絡み合う性質があり、しっかりとした強い紙になります。墨のにじみやかすれを表現しやすく、漢字を書くときに向いています。ミツマタは、繊維が短く柔軟なので、緻密な紙になります。墨がにじみにくく、仮名を書くのに向いています。ガンピは、繊維が短く光沢があるため、紙の表面が美しくなめらかになります。かな料紙などに使われます。

基本的に、和紙にはコウゾが使われることが多く、そこにミツマタやガンピを混ぜて、なめらかさや繊細さを出します。書道半紙は、原料や漉き方の違いで、随分と書き味が変わります。にじみがふわっと出るもの、かすれが強く出るものなど、さまざまです。中学生のみなさんには、ぜひいろいろな半紙を試してみ

和紙の主な産地

全国には数多くの和紙の産地がありますが、ここでは代表的なものをピックアップしてご紹介します。



※1 コウゾ クワ科の低木植物。 ※2 ミツマタ ジンチョウゲ科の植物。
 ※3 ガンピ ジンチョウゲ科の植物。栽培が難しく、製紙原料としての供給量は少ない。
 ※4 トロロアオイ アオイ科の植物。根から粘液が取れ、和紙の原料として使われる。



1 コウゾを蒸し、皮を剥ぐ

刈り取ったコウゾを同じ長さに切りそろえて蒸す。その後、蒸したコウゾの皮を剥ぎ取る。木の皮は、黒皮、甘皮、白皮の3層から成り、美濃和紙では、白皮を使う。



2 川に晒す

白皮を水に浸し、水に溶けやすい不純物を除いて柔らかくする。昔は「川晒し」といって、川の流れに2・3日白皮を浸した。現在は作業場の水槽で行われることも多い。



3 煮た原料を打つ

白皮を大釜で2時間ほど煮る。その後、水に浸し、手作業で丹念に塵を取り除く。その後、原料を石の板の上に置き、木槌で叩いて繊維をほぐす。現在では、この作業を機械で行うことも多くなった。



4 紙を漉く

叩いた原料とトロロアオイの根から抽出した液を、水の中に入れてよく混ぜ合わせる。そして、その紙料をすくって、簀桁と呼ばれる道具の上で揺すり、均一に広げ、紙の層をつくる。



5 紙を乾かす

漉き上げた紙を、圧搾機にかけて水分を搾り取る。その後、まだ湿っている紙を丁寧にはがし、干し板に張り付け乾燥させる。最後に、乾燥した紙を一枚一枚検品し、規格寸法に合わせて裁断する。

和紙ができるまで

美濃和紙編

長良川や板取川の清流に恵まれた岐阜県美濃市は、良質のコウゾが多く取れ、古くから和紙の産地として知られています。美濃和紙ができるまでの、主な工程をご紹介します。



▲「和紙は、手をかけて作られているもの。大事に使ってほしい」と話す田記さん。

3 和紙のよさ

最後に、和紙の魅力について教えてください。

和紙は、コウゾを刈り取って、それを

てほしいですね。お店に来て「書き初めの半紙を探しています」とか「練習用に気軽に使える半紙が欲しいです」とか用途を伝えてもらえば、いくらでも相談に乗りますよ。
半紙は一帖(二十枚)から売っています。手漉きでも、一帖数百円で買えるものがあるんですよ。時には清書用に、よい紙を使ってみると、気も引き締まるし、いいんじゃないでしょうか。



▲お店で保管されている大福帳(昔、商家で使われていた帳簿)。

蒸して、皮を剥いで……と、作るのにたいへんな手間がかかります(P31参照)。だからこそ、独特の美しい風合いがあり、何年経っても変わらない強度があります。よく、和紙は千年もつと言われますが、うちのお店には、明治時代の大福帳(右写真)が残っていて、百年以上経った現在でも、文字がしっかりと読め、紙が擦り切れずきれいな状態を保っています。
みなさんは、書道半紙に書いて失敗すると、半紙をすぐに捨ててしまおうとするでしょう。でも、和紙はとても丈夫なので、ちょっと失敗したからって捨てるのは、もったいないですよ。書く場所がなくなるぐらい、隅々まで書いて、紙に「ありがとね」って言うてから、捨ててほしいなと思います(笑)。
昔は、使った半紙を捨てずに、箱の裏張り紙に使ったり、割いてはたきにして



▲和紙で作ったはたきは、お店でも販売されている。

使ったりしてたんなんです(右写真)。ぜひ、みなさんにも紙を大事に使ってほしいですね。それが、私たち紙屋さんからのメッセージです。
はい！練習用紙一枚も、大事に使っていきたくらい思いました。そして、いつか手漉きの上質な紙に書いてみたいと思います。今日は、ありがとうございました。



株式会社 山形屋紙店
東京都千代田区神田神保町2-17
TEL 03-3263-0801
営業時間 10:00~18:00
定休日 土・日・祝日
URL www.yamatagaya-kamiten.co.jp